



《特集》どうする？ 日本の食料

日本の食料自給率（カロリーベース）は現在38%と食べ物を海外に依存する状態が続いていますが、一方で生産現場での飼料用米や米粉を使う取り組みや地産地消の活動も進んでいます。

JAグループが准組合員の「食べて応援」実践者を拡大するために取り組む「ファーマーズマーケットの日」（10月2日）へJAによる子ども食堂やフードバンクへの食材提供など、食農教育のテキストとして活用できます。

＜JA自己改革関連企画＞

女性の立場で点検！ JA自己改革

JAの女性経営者の立場からJA自己改革の取り組みについて、今までの自身の活動を振り返りながら語っていただきます。自分自身が成長すること、組織が活発な活動をする事、そしてJAがよりよい組織になることがつながっていることを意識し、JA自己改革が自分たちの生活と関連していることを実感できる内容です。

＜農ライフのすすめ＞

みんなでなくそう！ 農作業事故

農作業中の死亡事故はいまだ毎年300人を超えています。その多くが65歳以上の高齢者。今回の記事では、自身が認定農業者であり、製造業や特別老人ホームなどでの安全指導も行っている労働安全コンサルタントの方に、他の業種での対策事例なども交え、安全対策をわかりやすく指導していただきます。



定価 606円 (税込み)



定価 483円 (税込み)

《これからのJA・地域を展望する企画》

特集 活用しなきゃもったいない

再発見！ ファーマーズマーケットの力

地産地消の推進や消費者との交流の拠点として定着したファーマーズマーケット。もちろん、農業者の所得増大や農業生産の拡大につなげるという役割も担っています。その役割をさらに強化するために、ファーマーズマーケットはどんなことができるのでしょうか。識者が語る“戦略”と先進事例による“実践”を通じて、その可能性を探ります。

リーダーになろうぜ

LINEスタンプ「地上マンとゆかいな仲間たち」も好評発売中！



左依先生のサイエンス・クッキング～特別編～

PART 1では、地元の新鮮で、安全・安心な農産物がそろったファーマーズマーケットの魅力を為後左依先生と「ちゃぐりんレポーター」に伝えてもらいます。

PART 2では、野菜を使ったサイエンスクッキングを為後先生に教わります。レンコンやジャガイモなどをゆでてつぶしてペースト状にし、食感などのちがいを比較します。

マンガルポ 新米の季節！ 五平餅名人を訪ねて

いま話題となっている「五平餅」は、ごはんをつぶして串につけ、甘辛いたれをつけて焼いた郷土料理。起源や歴史を掘り下げながら、名人においしい五平餅の作り方などを教わります。